



フリック カフェハウス



永原 誠 画

総会予告	燎原文芸	「語る会」の発足の頃	幾山河(一)
	短歌 巨き傷跡	"民主主義"という	水野 秋
	アンビシャス	言葉すらなかつたころ	
	黒住 嘉輝	奥村 和郎	
編集後記		小田切明徳	
		上田 勝美	
		足立 恭子	
		憲法学者山下健次先生を偲ぶ	

## 幾山河(一)

水野秋

一九三五年、未だ四歳だった私は姉と共に母に連れて岡山の片田舎から下鴨の高木町に移り住んだ。二階の窓を開けると田畑が広がり、その彼方に大文字山がくつきり浮かんでいた。新築二階建ての住居は、当時、七条烏丸で薬局を営んでいた伯母夫婦が府立中に入学した一人息子の通学の便のために別宅として購入したもので、その直後、伯母は心臓を病んで入院し、私の母に協力を求め、いろいろ困難な事情はあったが、「一年」という約束で京都へ移つてきた。その一年の間で、あちこち見物した筈だが、今となつてはセビア色にくすんだ写真が残つてゐる岡崎の動物園以外はほとんど覚えていない。それでも幼い日の京都の思い出は何かにつけて郷愁をさうものがあり、もう五十年以上も東京で暮らしている私にとって京都は岡山に次ぐ「第二の故郷」といった思いが強い。だから、戦後、駅の真正面に場違いのタワー

が建つた時は筆舌に尽しがたい腹立しさ、不快感を覚えだし、ようやく「仕方がない」と、なれどきたら、今度は思い出の京都駅があたかも戦時中の戦艦を思わせるような無気味な建物となつて出現した時、私の胸の中の懐かしい京都が無限の彼方に遠去かつて行くような気がしたものだ。

私にとつて忘れられない京都駅は、あの戦前のささやかながらどことなく京都の駅として氣品にあふれた建物で、汽車がプラットホームに着くと「あゝ、京都にきた」と思い、改札口を出て駅前の信号を渡つて駅舎を振り返ると、「あゝ、京都だ」という思いを一層深くしたものである。そしてこの古い京都駅にまつわる一本の映画が、これまで鮮やかな思い出として残つている。あわただしくタクシーから降りた若い男女が駅の中に駆け込んで行く。武田麟太郎原作の題名は「幾山河」。戦時に大映に

併合された新興映画が一九四〇年に製作した作品だが、「戦時下にふさわしくない」という理由で検閲当局から上映を禁じられ敗戦後まで陽の目を見なかつた問題の映画である。出演した真山くみ子、逢初夢子、新田寛などはいずれも往時の人気スターだが、今日ではよほど映画通でなければ覚えていないだろう。ところで私がこの映画を見たのは多分敗戦の翌年頃だったよう覚えているが、戦争で大きな打撃を受けた映画界が新作の製作が間に合わず、それまでお蔵入りしていた古い作品に化粧直しをして封切つた一本だったのだ。ところが、その内容たるやまつたく目をおおいたくなるようなひどいものだった。一人の氣弱な苦学生を下宿屋の娘とアルバイト先の娘と奪い合うといつた、いわば昔前に菊池寛がさんざん書きまくつてきた通俗的な恋愛小説の二番煎じ、三番煎じともいつたようなつまらないものだった。

もちろん当時の私は武田麟太郎という作家をそれほど知っていたわけではないが、それでも「銀座八丁」や「大凶の籠」、「二の酉」などは読んでおり、その力量や手堅さは一応知つていたから、まずこの作品の原作者が本当に武田麟

太郎なのかどうかを疑つた。いくら糊口のためとはいえ、これではなんの足しにもならなかつたうにといった思いが残り、なんとかして原作を読んでみたいものと思つて調べてみたら、三九年から四年にかけて「婦人俱楽部」に連載された長編小説で一九四一年に単行本で発売されていたことまではわかつたが、入手のすべはまったくなかつた。頼んでいた古本屋の一軒から「入りました」という連絡を受けたのは、かれこれ一〇年以上も経つてからだつた。隅田書房という出版社から四七年四月、第三版として刊行された「幾山河」は粗悪な仙花紙を使った二八六頁のB6版で、内容は永い間思い続けていた通りの麟太郎に似つかわしくないものだつた。読み終えた後、私は、その昔、「真珠夫人」、「第二の接吻」、「東京行進曲」など往時の満天下の子女を熱狂させた菊池寛の恋愛小説の何篇かが、ものだつたという伝説を思い出し、當時の文芸春秋社に出入りしながら作家修行をしていた若き日の横光利一や川端康成らの代作によるものだつたという説を思い出し、もしかしたら「幾山河」もそうしたたたかいでなかつたのだろうかとも考えてみた。そうした事情を解明したくとも肝心な麟太郎は四

六年の三月に肝硬変で急死しており最有力の手がかりが失われていた。それやこれやが重なって、私はあらためて武田麟太郎という作家の生きざまに強くひかれるようになってきた。

数種類の年譜を並べて先ず驚いたことは、麟太郎の父・政二郎が私と同郷の人で岡山から大阪にて巡回になり、奮闘努力して曾根崎警察の署長や府警察部の管理職となり、後年、麟太郎が治安維持法違反で検挙されたため責任をとつて辞職したという事実だった。何か麟太郎という人物が急に身近な存在に思えてきた。

一九二六年、三高から東大の仏文科へ入学した麟太郎は、ほどなく東大新人会に加入し全日本無産青年同盟などにかかわりを持つようになり、やがてプロレタリア芸術運動で理論的指導者として活躍していた蔵原惟人らが組織した前衛芸術家同盟の書記局に入り、二八年三月、日本左翼文芸家総連合の創立総会で議長を勤めるなど、めきめき頭角を現してきた。新人会に参加した多くの学生が、「ウ・ナロード（大衆の中へ）」の呼びかけに応えて工場や街頭へ進出しを行つたように麟太郎もまた江東

の大島に設立された東大のセツルメントに住み込み、そこを拠点にして東京合同労組のオルグとして労働運動に参加していく。やがて授業料の滞納で東大から除籍され、非合法活動下でさまざまな悩みを抱えながらもプロレタリア作家同盟の大会には必ず参加し、あ

(みずの) あきら恐ろしいことになる」と。土井たか子氏が党首を辞したことで、こんな意見を言つてくれた

労働ジャーナリスト 東京在住)

## 今こそ憲法九条を守る

足立 恭子

今回の総選挙の結果には本当にがつくり落ち込みました。

共産・社民が半数以下に落ち込むなど誰も思つてもみなかつたでしょう。私自身もそうでした。

財界・大企業が日本の政治を乗っ取るためのシナリオを描き、自民・民主両党がその舞台上で踊り、マスコミがこそつてヤンヤの応援を繰り広げたのですから、余程冷

静に判断できる人以外は皆「政権交代」論に惑わされて、民主党に投票してしまつたようです。

私の近所の奥さんは、「自民党の政治を少しでも変えるには、少數の共産党より民主党の方がより

らゆる分野の文化運動の息の根がきびしい弾圧で虐殺される三四四年までの谷間を、喘ぎながら歩み続けた。

党という「つかえ棒」なしには政権が保てないでしょう。みんな宗教政党が日本の政治を動かした

人もいます。「土井さんの責任は物凄く大きい。自・社が連立政権を組むようなことを許し、自身が議長になつた時、小選挙区制度は参議院では潰れたのに衆議院で復活させた。護憲を言うなら小選挙区など絶対許してはならないの

に、彼女は何も判つていい。いずれ社民党は民主に吸収されて消滅する。そうなると国民の良識を代表してくれるのは共産党しかな。来年の参議院では何としてもも京都全体で当選した小選挙区六人の議員は、皆改憲賛成者。選挙後のアンケートに出ていた。共産党に投票しなかつたことをつくづく後悔している」と。マニフェストの厚化粧の下地がすぐさま見えてきたのです。

イラクへの自衛隊派遣が現実になりました。イラクへの自衛隊派遣が現実になりました。死者の心配も出るし、そうなれば改憲派が大半を占める衆議院では北朝鮮の拉致問題とも合わせて「核武装検討」などの扇動主義がいよいよ広がるし、事実自公・民主議員らの「安保議員協議会」は非核三原則の見直し等を打ち出しています。

民主党の党首がタカ派の小沢氏

に取つて代わるのは時間の問題で  
でしょう。民主党は自民のスペア一  
でしかありません。

それにも怒りがこみあげて  
来るのはこの間のマスコミの姿勢  
です。選挙中はあれだけ「二大政  
党論」を煽り立てておいて、選挙  
後は「違いが見えぬ二大政党では  
困る」とか「護憲の受け皿がなく  
ていいのか」などと尤もらしい論  
評をしていますが、どこまで世論  
を弄ぶのかと言いたい。

しかし政財界など反動側の「二  
大政党制」づくりの道と一般庶民  
の多数との間には深い矛盾があり  
ますし、今後この亀裂はさらに広  
がるでしょう。

私は昨年四月に市会議員を引退  
してから、立命館国際平和ミニュ  
ジアムのガイドを始めました。一  
月一八日は開館以来三〇万人の  
来館者を迎えた記念日になりました。  
最近は京都府内の見学者も増  
えていましたし、若い人々の見学が  
嬉しいです。ある中学校の三十代  
の引率の先生は「十五年戦争も戦  
国時代の戦争も歴史教科書の中の  
記述としか思つていなかつたけれ  
どここへ来て現代の問題という認  
識が出来た」と喜んでくれました。

ガイドの大半が戦争体験を持  
っているので、具体的な説明や助言  
を弄ぶのかと言いたい。

が出来ます。先日見えたある高校  
の生徒達は、ベトナム戦争の被害  
に強い関心を示し、「イラク戦争  
の被害は」と聞きましたので私は  
アメリカ軍がイラクで劣化ウラン  
弾を使用している事実を示しました。  
これには民医連の月刊誌の記  
事が役立ち、生徒達は瞳を凝らし  
て写真に見入りました。「なぜこんな  
惨たらしい戦争をするのか」と  
問い合わせてきたので、「アメリカ  
は石油の権益が欲しいから。ベト  
ナム戦争と同じ侵略戦争なのだ」  
とはつきり答えました。

小学校の六年生や中学校の二・  
三年生は、この時期ほぼ江戸時代  
の後半か明治時代の初期ぐらいま  
で学習してきます。それで鎌倉時  
代の「元寇の役」での台風で元の  
攻撃が失敗に終つたあたりは皆が  
知っているので、私自身が五年生  
の時に習った「初等科国史」の復  
刻版を示して、台風のことを「神  
風」と教えられた当時の虚偽の教  
育の一端を話すと、皆呆気にとら  
れます。中には「おばさんは子供  
の時そんな馬鹿なことを本気で信  
じたの」と聞く生徒もいます。

事実を教える教育の大切さを示  
す貴重な機会で毎日が緊張の連続  
です。傍で聞いていた引率の若い  
先生は「平和憲法と教育基本法が  
いかに大切か改めてわかった」と  
喜んで下さいました。

アメリカと財界が全面に乗り出  
した反動攻勢は本格的に動きだし、  
司法もマスコミも固有の役割を放  
棄しつつあるし、労働組合も弱ま  
っていますが、一方で若い人々  
や市民の中には憲法九条を何とし  
（あだち やすこ）  
国际平和ミニュージアムガイド  
宇治市在住

## 憲法学 者

### 山下健次先生を偲ぶ

上田 勝美

二〇〇三年一二月一六日未明、  
突如として立命館大学名譽教授山  
下健次先生がご逝去になつた。こ  
の年の夏に「病気が恢復しました」  
とのお便りを二回ばかり頂いてい  
たので、私にはあまりにも突然の  
訃報であつた。

思えば、山下先生には随分と長  
いお付き合いとご指導を賜つた。

この憲法研究所は憲法関係の研  
究書を定期的に出版しただけでな  
く、ニュース「永世中立」の発行

らで組織されていた。この憲法研  
究所設立時の顧問としては、立命  
館総長の末川博先生、大阪市立大  
学長の恒藤恭先生が就任され、二  
〇〇人の運営委員が居られた。その  
中には磯崎辰五郎、黒田了一、一  
円一億、杉村敏正らの諸先生、立  
命館大学からは清水慶三と山下の  
両先生が参加されていた。

この憲法研究所は憲法関係の研  
究書を定期的に出版しただけでな  
く、ニュース「永世中立」の発行  
年に憲法政治学研究会を組織され、  
同六二年に憲法研究所を設立され  
た。この憲法研究所は関西一円の  
憲法研究者、政治学者、歴史学者

ても守ろうという気運も広がりか  
けています。

それだけに今は、戦争体験者の  
世代が力を出す時ではないでしょ  
うか。

（あだち やすこ）  
国际平和ミニュージアムガイド  
宇治市在住

憲法研究所・上田勝美編集になる「日本国憲法のすすめ」に「自治体外交権」と題する玉稿を賜つて、このご高論はおそらく絶筆かもしくはそれに近い論稿であろう。

ところが私が山下先生と親しくして頂いたのは他でもない、先に述べた憲法研究所や公法関係の全国的学会ではない。それらの公の学術機関でももちろんお世話になつたが、実は京都憲法会議で長期間大変お世話になつたのである。六〇年に日米安保が改定され、憲法改悪の危機が迫つて、一九六五年三月一三日末川先生・住谷悦治先生（同志社総長）・羽仁説子氏ら三三人の呼びかけで「中央憲法会議」が結成され、それに伴い京都でも同月末に「京都憲法会議」が結成された。

京都憲法会議の初代事務局長は京大の宮内裕教授、続いて立命館大学の天野和夫教授、山下教授と能力あり見識あふるる事務局長時代が到来したのである。京都憲法会議結成もない頃は、憲法知事といわれた嵯川時代と重なつためか、京都会館や勤労会館（今のハートピア）で開催する「憲法府民の集い」などは、いつも大会議室が満杯の盛況であった。その他

の憲法講習会、憲法学校などの憲法の集いも盛況そのものであり、まさにその勢いは「燎原の火」のごときパワーを持つていたと言えよう。

### かくのごとく京都の憲法運動が

盛況を極められたのは、何時もその運動推進の中心に山下先生が居られ、獅子奮迅の活躍を継続して為されたからであろうと私は思つている。まさに山下先生は憲法学における理論と実践を統一した偉大な指導者の一人であつた、と言える。今は、六〇年代後半および七〇年代前半に全国的に憲法会議が結成され、活躍した時代と異なり、憲法改悪の日程が具体化され、そうな切迫した違憲の政治が横行している。だからこそ私たちは山下先生が実践された憲法運動の真意義を広く伝え、憲法改悪の逆流に抵抗し、それを阻止して護憲の遺志を継ぐ所以であろうと思う次第である。

山下健次先生、  
安らかにお眠りください！  
(○四・二・八)

龍谷大学名誉教授  
左京区在住

はるか遠い昔のことを徒らに思ひ出すのは愚かなことのように思われます。けれどその重大さが今問われているとき、ことの本質を白日の下に明らかにすることは、過ちを二度と繰り返さないためにも大切なことではないでしょうか。

一九三三年旧制中学に入学した私は、当時四条大宮から西院まで開通したトロリーバスに乗るのが嬉しくて、大きなランドセルを背負つて通学したものです。四年生の時、いわゆる二・二六事件が起きました。朝刊紙の一面はほとんど真っ白で、ラジオは「青年将校が決起した」と繰り返すだけで、不気味な一日でした。

小学校入学以来、登下校の際には校門近くの「ご真影」に最敬礼し、「君に忠義を尽すことが、親孝行になる」（いわゆる「忠孝一本」）と教えられて来た純情な少年にとつて、「海行かば、水漬く屍 山行かば草蒸す屍 大君の辺にこそ死なめ かえりみはせじ」の歌

## “民主主義”という言葉すらなかつたころ

奥村 和郎

詞は私の青春時代を貫いてきた信条の一つもありました。当時の通知簿（成績表）に現在の道徳欄にあたる「操行」という評価項目における評価は、甲”があり、中学四年生までは“甲”で、家族も当然のように誇りにしていたようです。

二・二六事件は少年の心にも暗い影を落としましたが、当時の教育はひたすら「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」に収斂される状況でした。それでも旧制高校受験のため、塾通いに忙しく、政治の話は誰からも働きかけられたことはただの一度もありませんでした。戦争は遠いところのお話でした。戦後の映画「女ひとり大地を行く」のなかで、娘売る方はご相談下さい”という村役場の暖簾がはためいていたシーン、そうした農村の窮状も何も知りませんでした。現在、福祉・医療きり捨ての陰に見捨てられている低所得者や高齢者の実態と、あまりにも似通つて

いるように思われないでしょうか。

三七年一二月、市内公立中学生徒は、南京陥落祝賀提灯行列のため、建礼門前に集合するよう命令がおりました。受験に追われていた私は塾を休む事はできず、心ならずも提灯行列に参加しませんでした。翌日放課後、母親とともに担任教師から厳しく不参加の罪をとがめられ、操行欄は甲乙丙丁以下で評価の仕様がないと説教されました。愚かな少年はそれでも「忠孝一本」の呪縛から逃れようと露だに考え、操行欄白紙のまま卒業証書を手にしました。

無事工業高校にはバスしましたが、後日主任教官から「操行欄が白紙のため入試判定会議で大問題になった」と聞かされ、運命の悪戯に苦笑したものでした。

敗戦を大分県小野鶴の洞窟の入り口で迎えました。蝉時雨の降りしきる灼熱の太陽の下、天皇の大ミ声が何を言っているか分からなかつたが、直感的に「戦争に負けた」と弦いた途端直属上官から罵声が飛んだ。「この國賊め!」。すんでのところで彼の抜刀の犠牲になるところでした。それでもなおかつ「鬼畜米英」、「いざ、鎌倉に備えて」と、戦後佩刀禁止令が公布された後も、軍刀を押し入れ深

く仕舞い込んでいたものでした。

恐ろしい時代でした。愚かな少年がこのまま成長すれば、「人を殺すこともあれば殺されることもある」ような人間に成りかねない危険を孕んでいたのではないでしょか。「民主主義」という言葉すら知らなかつた六〇年以上も前の回想です。

(一一〇〇三・一一一・一九)

(おくむら かずお  
東山区在住)

## 「語る会」の発足の頃

小田切 明徳



一 土曜会のメンバー

一九七九年は山宣の顕彰行事の場になつた。その一〇年前は同じく灼熱の太陽の下、天皇の大ミ声が何を言っているか分からなかつたが、直感的に「戦争に負けた」と弦いた途端直属上官から罵声が飛んだ。「この國賊め!」。すんでのところで彼の抜刀の犠牲になるところでした。それでもなおかつ「鬼畜米英」、「いざ、鎌倉に備えて」と、戦後佩刀禁止令が公布された後も、軍刀を押し入れ深

共にした同志たちの最後の総結集の場になつた。その一〇年前は志達はそれぞれの分野の第一線での任務に集中していましたし、次の一年後には彼らの多くは鬼籍の人となつたからである。山宣の同志、彼を先輩と慕つた全国の老活動家は結集し、「山宣とその時代、その周辺」を大いに語った記念行事が開催された。

二 「研究・懇談会」から、「語る会」へ

実行委員会に結集したその同志たちの会を彼らは「旧友クラブ」、前回の社会運動研究懇談会」として、

その第一回(九月三〇日)は「戦

土曜会」と自称した。その中心メンバーが木村京太郎、北牧孝三、井垣次光らであった。彼らは当時八十歳前後で、山宣の語り部として山宣を現代社会との関りで生きと証言したのであった。この行事が大きな成果を得て終ろうとする七九年の夏、実行委員会の総括会議を持った(七/一七)が、ここではこの事業の総括には触れないと、その内容は同志社山宣会編「山宣研究」五号・特集参照)。その二日後、その土曜会のメンバーはこの事業の取り組みを発展させるために「京都の革新運動を守る会(仮称)」の準備会を部落問題研究所で開いた。

その土曜会は、「山宣の業績を継続発展させる事は私達老人だけではなく、新しい世代を継ぐ青年の任務でもあり...京都の民主運動の歴史の研究は大切です」と上記の三名に加えて、山田幸次、細川

三酉の五名が呼びかけ、当時、立命館大学在籍の塩田庄兵衛の援助を求めて次の活動を具体化するため準備会をもつてゐる。

北牧、木村の両世話人名で関係者に案内状を送り、当日は呼びかけ人の他、塩田ら一〇名が参加している。初めに北牧が挨拶し、「大正デモクラシーから、三・一五事件までの研究を、先輩の苦労した事業から学んで受け継ぎたい。京大の先生の書いた資料は特高のものであるので、塩田先生の指導を受けてまとめていきたい」と述べた後で、木村が「水平社運動当時の社会情勢」と題した報告の後、懇談がなされた。第二回は一〇月一二日に府立労働会館で、木村の第二回目の報告がなされた。

この後、準備会の会合の進捗についての記録が私の手元には無い。準備会は一九八〇年一月五日の会合で、「語る会」の呼びかけ（文案は井垣の筆跡である）、会則の検討を行い、二月二〇日に第一回の「京都民主運動史を語る会」を上京区の立本寺で開いた。その会で、代表世話人である住谷悦治の報告があり、会の発足がなされた。名称であるが、当初は「京都の革新の伝統」、とか「京都の民主革命の歴史的伝統」を標榜していたが、「京都における民主運動の歴史を語る」となり、略称「京民研」と北牧は会則（案）のプリントにメモ書きを残している。この

人との他、塩田ら一〇名が参加して、塩原の創刊号に収録されている。なお、会誌名の経緯については、二号、一二号にその説明があり、正号題字は住谷悦治の書を、当初縦書きに使った。一号（八一年新春号）から題字は横書きになり、背景に品角一郎の山の絵を重ねる今日のスタイルとなつた。

発足後に開かれた三月四日の役員会では、会誌の名称、会員の拡大、事業計画、収支予算の検討とともに、第二回例会を決めている（部落研会議室、木村レジュメ）。通信、会費請求など事務能力抜群の木村と行動力ある北牧らが全国レベルの「語る会」の会員を募り、土曜会の同志たちと運営の中核をつくり、「語り部」を組織していったのである。

### 三 北牧孝三の書架にあった 関連会誌

この会の発足に際しては、私はさか不正確であった。山宣顕彰の行事にその推進役にあたつた土曜会のメンバーは頻繁に連絡を取りあい、募金活動や資料の発掘、参加者の動員に当たっていた。彼ら山宣の同志たちの言う「会の目標があつた。私にとって山宣の

会の「設立の趣旨」と「会則」は燎原の創刊号に収録されている。なお、会誌名の経緯については、二号、一二号にその説明があり、正号題字は住谷悦治の書を、当初縦書きに使った。一号（八一年新春号）から題字は横書きになり、背景に品角一郎の山の絵を重ねる今日のスタイルとなつた。

発足後に開かれた三月四日の役員会では、会誌の名称、会員の拡大、事業計画、収支予算の検討とともに、第二回例会を決めている（部落研会議室、木村レジュメ）。通信、会費請求など事務能力抜群の木村と行動力ある北牧らが全国レベルの「語る会」の会員を募り、土曜会の同志たちと運営の中核をつくり、「語り部」を組織していったのである。

### 三 北牧孝三の書架にあった 関連会誌

この会の発足に際しては、私はさか不正確であった。山宣顕彰の行事にその推進役にあたつた土曜会のメンバーは頻繁に連絡を取りあい、募金活動や資料の発掘、参加者の動員に当たっていた。彼ら山宣の同志たちの言う「会の目標があつた。私にとって山宣の

会の「設立の趣旨」と「会則」は燎原の創刊号に収録されている。なお、会誌名の経緯については、二号、一二号にその説明があり、正号題字は住谷悦治の書を、当初縦書きに使った。一号（八一年新春号）から題字は横書きになり、背景に品角一郎の山の絵を重ねる今日のスタイルとなつた。

発足後に開かれた三月四日の役員会では、会誌の名称、会員の拡大、事業計画、収支予算の検討とともに、第二回例会を決めている（部落研会議室、木村レジュメ）。通信、会費請求など事務能力抜群の木村と行動力ある北牧らが全国レベルの「語る会」の会員を募り、土曜会の同志たちと運営の中核をつくり、「語り部」を組織していったのである。

北牧はかつての関西地方委員会の活動のため奈良、大阪、滋賀、福井などを担当していた。その聞き取りに私も同行したが、かれは福井などを担当していた。その聞き取りに私も同行したが、かれは後遺症のために固有名詞がなかなか取り扱うことができなかった。ともあれ、私の山宣研究にとって、土曜会・「語る会」が「学びの教室」であったことは確かのことである。

（おたぎり あきのり）

伏見区在住

顕彰の仕事はライフケアであるが、私は職場があつたし、山宣全集の校正等に時間を取られて、その準備会への参加は時々となり、その間に土曜会の同志達はその準備をちやくちやくと進めていた。私的なことであるが、この事業の最中に私は結婚した。岳父・北牧と彼の妻はたいへん喜んでくれた。そんなわけで八条通りの北牧宅にもしばしば通う事になり、彼の身辺整理も行う事になった。彼は西口克己から「オールド・ボルシェビスト」と呼ばれる風貌と行動を確かに備えていた。八〇歳を超え、脳梗塞の後遺症を抱えた北牧は日常生活での食事、睡眠以外はベットで新聞、雑誌、読書をしていた。北牧の妻は食事つくり、洗濯で精一杯、彼の部屋の掃除までは手に回らなく、本棚、机ばかりでなく、ベット周辺には紙類が溢れていた。その雜多に置かれていた書類の中に、「旧縁の会会報」（俣野旭・三鷹市）、「不屈」、「煙」、「OB会報」（京都労働運動OBの会）、「文化」、「京都旧友クラブ会報」が、新聞、雑誌、趣味の書道の本と混在していた。

これらの会誌に投稿する主たるメンバーは重複しており、交流がなされ、他紙の記事がしばしば「燎原」にも収録されていた。七〇年代後半から、北牧らは東京や大阪の同志たちとも励ましあつて運動史を残そうとする機運が生じたのである。彼らは互いに刺激しあいながら自分史ならぬ闘争史を編みはじめたのであった。こうして「語る会」の結成前後には頻繁にその議論を深めつつ、「燎原」の発行に思いを寄せていったのである。

北牧はかつての関西地方委員会の活動のため奈良、大阪、滋賀、福井などを担当していた。その聞き取りに私も同行したが、かれは後遺症のために固有名詞がなかなか取り扱うことができなかつた。ともあれ、私の山宣研究にとって、土曜会・「語る会」が「学びの教室」であったことは確かのことである。

## 巨き傷跡

燎原文芸

黒住嘉輝

テレビを見新聞読めば世の中がわかると思う危うさに居る

自民党支持する程の金持ちは思えぬ人の支持する多し

なんとかの一つ覚えのお題目「小泉改革」虫唾がはしる

開発と言う名の破壊止まざりし列島にいま巨き傷あと

## アンビシヤス

身体髮膚父母に受くれば我いまだ虫垂炎も切りしことなし

最高裁判事の選挙公報に我より年長の者見当たらず

(渡川) シ・マムタ源流点の標識をあえぎ登り来し漫に見て  
いる  
アシビシヤス  
大志抱くことももはやなくなりて龍馬脱藩の道述りおり

(くるすみ よしてる 西京区在住)

## 定例総会のお知らせ

日時 五月二九日(土)午後一時三〇分～四時

会場 企業組合センター「しんまち」

小講演「占領下のイラクで明らかになつたこと」

講師 坂井 定雄氏(龍谷大学教授)

中東問題の専門家、元共同通信社・京都支局長



TEL	FAX	会および会報については、 左記へご連絡下さい。
〔事務局〕	〒六〇六一八一〇七	京都市左京区高野東開町 一一二三 第三住宅 三三一三〇二 井手 幸喜
三五一一一三〇二	三五一一一三〇二	

## 編集後記

とうとう陸上自衛隊イラク派遣

隊の本隊が出発した。見送り人に

対する隊長の敬礼をテレビで見た。

筆者は戦争末期に三度「総員帽ふれ」を受けて基地を出発し、自身

は挙手の礼でこたえた経験がある。

ただあの時は隊員の家族の見送り

はなかつた。それは事前にひそか

にすんでいたはずだ。いまは涙を

うかべた家族の公然の見送りがあ

る。彼らは本当に心の底から納得

したのだろうか。不幸な結果がお

こらないよう願わざにおれない。

この不況の中でトヨタは空前の

大利益をあげた。奥田トヨタ会長

II 経団連会長はそれでも賃上げは

おこなわない方針を明言し、おど

ろいたことにトヨタの労働組合もそれを諒承しあえて要求しないこ

日本は狂つている。ブッシュが引つぱるアメリカも明らかに狂っている。狂つた者同士の「同盟」は世界の破滅にむかつて進んでいくとしか思えない。何とかして、どこかでだれかが、くいとめなければ大へんなことになるのではないか。